第 40 回 総 会

和歌山県立医科大学附属図書館

参 加 者 (152 名)

来 賓	2 名	準 会 員	18 名
名 誉 顧 問	2 名	(館長 5 名 司書 13 名)	
正 会 員	152 名	オブザーバー	3 名
(館長 42 名 司書 83 名)		中央事務局	2 名

日 程 表

日 程 区 分			総 会 次 第		報 告 者	
10月15日 (水)	司書会議	9.00～10.00	受 付		議長 昼馬 逸郎 (山口)	
		10.00～17.00	会 議			
		17.00～19.00	司書懇談会<葵館>			
10月16日 (木)	総会 (第1日)	9.00～ 9.30	受 付		半田 順俊 (和歌)	
		9.30～10.00	開 会 の 辞			
		開 会	当 番 校 挨 拶		藤江 君夫 (和歌)	
			新館長・新司書紹介			
			小 沼 賞 授 与			
		10.00～12.00	中央事務局および委員会報告			
		12.30～13.30	記念撮影 昼食			
		13.30～14.30	講演「アメリカの医学図書館における機械化について」		今村慶之助 (東大)	
		14.30～16.00	第3回国際医学図書館会議報告		裏田 武夫(事務局)	
		16.00～17.30	パネル・ディスカッション「医学教育と医学図書館」		松村多美子 (慶応)	
18.00～20.00	懇親会<新和歌浦観光ホテル>		菅 利信 (東医)			
10月17日 (金)	総会 (第2日)	9.30～12.00	議 題 審 議		半田 順俊 (和歌)	
			閉 会 の 辞			
		12.00～13.00	昼 食			
		13.00～18.00	近 郊 見 学			

総 会 雑 感 当 番 館

曾 我 部 昭 美*

〇 は じ め に

1969 年は大学紛争の年だと言われているが、この年に開催された第 40 回総会をふりかえるとき、やはり先ずこの紛争にからんだ事柄がいろいろ頭に浮かんできて、感慨深いものがある。これは勿論当番館だけではなく、ご出席の方のうちにもそれぞれお持ちの方もあらうかと思うが、とにかく当学にもささやかながら封鎖騒ぎがあって、ちょうど加盟館へ発送直前の統計用紙を、夜半どさくにまぎれて持ち出したりしたこともあった。図書館の中にもバリケードが築かれ、一時はどうなることかと思われ、えらい年に総会を引き受けたものだと思運をかけたものだが、幸い半月余りで解除され、その後は順調に準備を進めることができた。しかし、もしもの場合に備えて第二会場を考えたり、最後まで気を許せなかった。

当番館がもっともおそれたのは総会が延期になるような事態で、これだけはなんとか避けたいと思っていた。ものともこれは当番館だけではどうにもならない、全国的な情勢ともからんでくる問題であったが、結果的には予想以上の参加人数で、多少変則的な面はあったけれども、無事に終了することができ、ホッと胸をなでおろしている次第である。これは時期的に紛争が一応下火になっていたせいもあるが、参加者各位の暖かいご支援の賜もあり、心から感謝している。

〇 準 備

1 月の地区例会に総会案を提出し、いろいろもんでもらった。それで、研究発表は館長の方にも聴いていた

きたということ、慣例にはそわなかったが、司書会議からはずし、総会第一日に入れた。そして、その内容は、小沼賞受賞者に記念的な発表をしてもらってはどうかという意見があり、それに決まったのだが、受賞決定の時期の問題で、最終的には変更された。今後の総会でこのアイデア（異論があるかも知れないが）をご一考願えればと思う。司書会議からはずした研究発表の代りには、従来、承合事項があまり取り上げられていないということで、それを当てた。

パネル・ディスカッションは、総会に学会的なものを一つでも入れてほしいという原前会長のご要望もあり、大学問題が論議を呼んでいる析から、教育手段としての医学図書館の在り方について討議してみてもどうかという半田館長のアイデアにそってまとめられた。それから、前例にしたがって、準備委員会を作ってもらい、その方の集まりでさらにいろいろ有益な助言をいただいた。総会のプログラムが大体でき上がったのは 2 月末であった。地区館の方々にはこのように準備段階で、また総会当日には受付、記録等で一方ならぬご協力をいただいたが、改めてお礼を申し上げたいと思う。

準備段階でもう一つ問題になるのは宿泊所であるが、最初予定していた紀ノ国荘の改築が遅れたために、幾つにも分散して宿泊していただく結果になったが、宿舎間の設備やサービスに差があり、また手違いなども多少あったようで、一部の方には申し訳ないと思っている。ある司書の方が宿舎にランクをつけて下さったが、××旅館は C でしたと言われたときにはギャフンとなった。準備段階で宿舎にはなん度も足を運んだのであったが、個々のサービスの状態まではわからず、言われるまで知らなかった。ある方から、宿舎の窓からの海の眺めがよ

* Akimi SOGABE,

かったとお聞きしたが、せめてものことである。また、ある館長さんから、一部屋に5人詰め込まれたので宿を変えてほしい、部屋は悪くてもいいからと苦情を持ち込まれ、あわてて大学の近くの三流旅館にお移り願ったケースもある。当地には大きなホテルがなく、また観光旅館は相当ふんばつしない限り、どうしても詰め込み主義になるので、個室ご希望の方すべてにご満足いただけなかった点を誠に残念に思っている。自分の経験からも、宿舎はその会議や土地の印象をある程度左右するほどの重要な要素だと思うのだが、料金や人の問題もあり、宿泊所の準備というのはつづくむづかしいものだと感じた。

統計、名簿、承合事項等の回答書類については、大学紛争の関係で、集まりが相当遅れるのではないかと心配したが、それほどでもなくまずまず予定通りに集約できた。全般的に紛争校のほうがむしろ回答が早かった。

回答の遅れについては毎年言われていることなので、また繰り返すのもどうかと思われるが、回答書類の中で、特に承合事項についてはぜひとも期限を厳守していただきたいと思う。これは上記3書類の中で最後に集約するものであるが、総会前に加盟館へ発送しなければならない。それに統計などと異なって、記入の枠が事前に決まっていない場合が多いので、どうしても全部集約できないと印刷所へ回せないのである。今回も1, 2館相当に遅れたが、せめて電報督促にたいする返事なりといただきたいものである。

なお、統計で、封鎖のため一部の項目につき未記入の館があらわれたが、これも今回の現象といえよう。もっともこれについては来年度もっと多くなるかも知れない。

当館のような小人数の図書館では人手の問題があるが、準備段階では結局一人も雇わないで済んだ。その代り総会前の2, 3ヵ月は殆んど一人それにかかりきりだった。手に余る場合は人を雇う予定にしていたが、予想していたよりも順調に進んだようだ。もっとも人手不足はあらわれるもので、義務を最低果すのに精一杯で、今からふりかえてみて、いろいろ思うことがある。例えば、市内案内で、はじめて当地のような地方に来られた方のために、ありきたりでない、ツボを押えた案内をと思っていたのだが、適当な資料もなく果せなかった。ちょっとこまめに動けば作れたのにと残念である。

○会 期

参加者の側からは時間のたつのが遅く感じられたかも知れないが、当番館から言うとは非常に速く感じられたので、会期中についてはこれといった感想のないのが正直のところだが、予想していたことと全く逆になったのは、司書会議と総会第一日目の時間不足であった。当番館としては時間が余るよりも、不足する位のほうを内心期待しているのではあるが、おかげで、せっかくのパネル・ディスカッションが尻切れトンボに終わったのはいささか心残りである。しかしそれだけ会議を盛り上げていただいたわけで有難いことだと思っている。時間不足とはいえ、パネル・ディスカッションは試みとしては興味を持たれたようで、後で、特に館長の方からいろいろご感想をいただいた。これをふみ台に今後さらに充実したものにしていだけたらと思う。

それからもう一つ、全然ではないがこれほどとは予想できなかったことは、ご出席の方の中から、いろいろの変更の申し出やら、その他ご質問、ご注文などが沢山あることだった。それぞれもっともお話で、館員一同曲がりなりにもつとめたわけだが、なにさま小人数の悲しさ、泡を食った場面もあった。

○今後に関して

総会の在り方については、今までにもいろいろ言われ、とにかく内容豊かな総会にするためには、研究発表、討議、講演等を十分に盛り込みまた分科会等も設け、いわゆる学会的なものにしてゆくべきであろうが、それに関して一言述べてみたい。

いい企画を立て、その準備をすることは当番館の腕の見せ所かも知れないが、陣容の整った大図書館ならいざ知らず、それ以外では事務的な準備に多くの時間をとられるし、また全国的展望も利きにくいように思われる。そこでこれは札幌医大の総会報告にも述べられていることだが、勿論、企画は一応当番館が立て、イニシアチブはとるとしても、その強力なバック・アップを理事会あたりにやってもらえれば質の高いものになるのではなかろうか。現在でも勿論いろいろ指導、助言はあるわけだが、もっと明確な、組織的なものにしておいてもらえれば有難いように思う。